
ISカスタムロボGX

青月ライ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ISカスタムロボGX

【Nコード】

N5446T

【作者名】

青月ライ

【あらすじ】

天の世界の方の不手際でISの世界に転成する事になった少年『榛名 空牙』

彼は変幻自在なロボを駆り、ISの世界を駆け抜ける！！
.....はず！！

*9月28日タイトル変更、ならび再構築します

00 エ！？ テンセイ！?? (前書き)

やってしまったorz

だが、後悔はしてない!!

よければ楽しんでみてください

00 エ！？ テンセイ！？？

「……………」

少年は目の前に広がる光景に言葉を失った。

(え！？ ここどこ！？ 学校が終わって家に帰ってきて、自分の部屋のドアを開けたんだよな！？ え！？ え！？！？)

少年は混乱する思考をなんとか理解しようと、後ろを振り向くが広がる光景は360度同じであった。

「とりあえず落ち着こう……」

そう思い地面に腰を下ろし、視線を上げると

「……………(ジー)」

「なんかいた~~~~!!!!!!」
目の前に人が立っていた。

……………

「その・・・、まとめると、あなたのミスで俺はこの空間に飛ばされたんだすか？」

「……………うん」

「なにしてるんですか……………」

俺は目の前にいる少女の話を聞き、呆れるしかなかった。

なんでもこの少女・・・、恋さんは天の国・・・、いわゆる“あの世”の武官なんだそうで、鍛練してたさいに使っていた武器・・・“方天画戟”を手を滑らして俺の式神（像みたいなものらしくこれが壊れると俺達、下界の人を死んだりするらしいですby恋さんよ）を壊したらしく、その際本当は直してはいけないのだが、直してしまいこの空間“転成の間”に来てしまったそうです・・・。

あ、こう状況を整理してらわかったんだけど、転成できるだ・・・

「…………恋の話わかった？」

「わかりましたから、そんな涙目で見ないでください・・・」

恋さんがものすごい涙目で見てるんですが、めっちゃくちゃかわいいいんですよ、この娘！！

めっちゃくちゃ萌える・・・

・・・いかん、いかん、理性を失いかけた。

でだ。

「それで転成できる世界がなぜか… IS…の世界だけなんですよね？」

「……うん」

「まあ、あの世界、面白そうだしいいんだけどね……」

小説読んでたんだけど、いいね IS。MSには負けるけど、男の口マンが感じるね。ハーレムなもの……

「……2つ」

「ん？、なに？」

「……使いたい IS のイメージと要望の 2 つ」

「なるほど、俺が使う IS のイメージとにかしらの能力とかを追加してくれるのか」

「……」
「コケ」

頷いてるし合ってるのか。

「そうだな……。やっぱり転成する奴らは MS とかが多いのか？」

なんとなく気になったので聞いてみると

「……多い」

「やっぱりな……」

そりゃ男のロマンだからMSは

「なら俺は“カスタムロボ”でいこうかな。他にこれにした奴いるか？」

「……恋が知る限りはない」

「なら、俺が一番か。なんか気分いいね」

今思えばすごいよな、カスタムロボ。64ビットとは思えないあの楽しさは

「……要望はどうする？」

「そうだな……」

他の奴は顔をイケメンとかに変えてもらったんだろうな。まあ、俺は彼女はいなかったが女友達はいたからどうでもいいだよな……。

まあ、転成する世界があればし

「身体能力をそこそこ上げてくれ」

「……そこそこ？」

「まあ、ある程度上げてくれ、任せる」

「……じゃあ、恋ぐらいに上げとく」

おお!! この娘、俺より強いのか!! さすが天の世界!!

「で、いつ転成するんだ？」

「……あれ」

「あれ？」

恋が指差す方向を見ると、そこには光があった。

「あれに向かえばいいのか？」

「……うん」

なんかわかりやすね

「んじゃ、行かせていただきますか」

俺はそう恋に言い、光へと向かう。

「そっぴや、自己紹介がまだだったな。俺の名前は榛名 空牙だ」

「……恋は、呂奉先」

「また、会えること願ってるよ」

「……恋も」

恋に見送られながら光へと向かう。

それにしても呂奉先ね……

「呂奉先？」

俺は足を止め、後ろを振り替える。

「……ん？」

恋さんはかわいらしく首をかしげていた。

萌えるは……

じゃ、なくて！

「呂布……！！！！……？……？……？」

そして俺は光に包まれた。

00 エ！？ テンセイ！?? (後書き)

明日でテスト最終日だ

こんな感じの駄文で書いていこうと思います。

よろしければこれからも読んでくれると嬉しいです

感想まで待ってます)・(

01 ニンジン(前書き)

中間テストや国家試験などで更新が遅れました(、；；)

緊急の更新のため、かなり短いうえに駄文です

短いですが、お楽しみください

01 ニンジン

光に包まれた後、その光が明けると

.....

.....

絶賛スカイダイビング中

「んなの、聞いてねえぞ〜!!」

俺は反射的に、いつの間にか首にあったネックレスを掴み、ISを展開した。

「……………」

反射的とはいえ、ISを展開したことに空牙は驚いていた。

(本当に使えるとなるとやっぱりテンションあがるな……)

空牙はそんなことを思いながら、自分の姿を見る。

全身が緑、関節部が青色をした全身装甲フルスキン

ディスプレイに表示されていたISの名は

『カスタムロボTypeジャベリンMK2』

「ジャベリン……、しかもMK2だからGXの機体か」

(ジャベリンといえば機動性に優れていた機体だったはず、よく使ってたな……、格好よかったしな)

空牙がISを展開でき、しかも好きであった機体を展開できたためテンションが上がっていたところに……

「ね〜?」

「なんだよ、今テンション高いんだから喋りかけんなよ」

と、声がしたほうを見ると

「.....」

目の前にニンジンが飛んでいた。

01 ニンジン(後書き)

次回はしっかりと書きますので

お待ちください) ^o^ ;

感想など待ってます

02 カイニユウチヨクゼン（前書き）

更新を待つてくれていた方々

大変お待たせいたしました

学校登校途中のバスより更新です

ではどうぞ

02 カイニューウチヨクゼン

話はかなり飛びますが、現在、ゴーレム君を追いかけています。

そう、あの鈴と一夏がクラスマッチのさいに乱入してきた、あのゴーレム君です。

なぜ、ゴーレム君を追いかけているかというところ……

回想

ISを展開できたことを喜んでいるところに、ニンジンに乗った東さんが登場。

「君、いいところにいたんだよ。今すぐゴーレム追いかけて」

いきなり、ゴーレム追いかけて、て……

「いや、まあ……、いいですけど、何も聞かないですか？」

「今は聞かないから、お願いされて」

「いや、会話が「お願い」「……、うい〜」

回想終了

興味ない人には冷たいのは本当だったんだね。

まあ少なからず相手されただけ良いほうなんだろうな。

説明が下手なのは使用です。

で、さっき言った通りゴーレム君を追いかけるんですが、もの数分前にISを起動したばかりにこの速度は辛い。

いくらハイパーセンサーがあるとはいえ、初めてなのだから辛いものは辛い。

初めてながらもこれだけの動かせるのは、あの神、恋ごと呂布の身体能力と同じだからなのかな？

そんな事を考えながら、ゴーレムを追いかけていたら、突然ゴーレムが軌道を変え、下えと急降下していた。

このゴーレムの行動で俺は・・・

一夏達の世界へと入り込む事を改めて理解し

「原作介入じゃー!!」

叫びながら、急降下していった。

02 カイニユウチヨクゼン（後書き）

またまた短くなりました（「、、」）

今日からまたテスト期間に入りますので、また更新が遅れると思いますが、ご理解のほうよろしく願います

感想などお待ちしております

お知らせ（前書き）

お知らせです

お知らせ

長期間、更新を行わず申し訳ございません

次話を書いていきたかったのですが、あまりにも駄文すぎるので一度書き直ししようと思います

題材にするのは「カスタムロボGX」にいたします。

「カスタムロボ」「カスタムロボV2」は他の作者さんのものを確認いたしましたので、この作品にはあまり登場しないと思います

誠に勝手なことですが、ご理解お願いします

再構築一話を来週までに更新いたします

更新のほうは亀になってはしまうと思いますがご理解お願いします

それでは失礼します

新00(前書き)

来週までには

とかいいながら更新

はじめはそれほど変わっていません

「……………」

少年は目の前に広がる光景に言葉を失った。

(え!?!? ここどこ!? 学校が終わって家に帰ってきて、自分の
部屋のドアを開けたんだよな!?!? え!?!? え!?!?!?)

少年は混乱する思考をなんとか理解しようと、後ろを振り向くが広
がる光景は360度同じであった。

「とりあえず落ち着こう………」

そう思い地面に腰を下ろし、視線を上げると

「……………(ジー)」

「なんかいた~~~~!!!!!!!!」
目の前に人が立っていた。

……………

「その……、まとめると、あなたのミスで俺は死んでしまって、この空間……、ええと、転生の間にいるんですよね？」

「……………うん」

「なにしてるんですか……………」

俺は目の前にいる少女の話を聞き、呆れるしかなかった。

なんでもこの少女……、恋さんは天の国……、いわゆる“あの世”の武官なんだそうで、鍛練してたさいに使っていた武器……“方天画戟”を手を滑らして俺の式神（像みたいなものらしくこれが壊れると俺達、下界の人を死んだりするらしいですby恋さんよ）を壊したらしく、その際本当は直してはいけないのだが、直してしまいこの空間“転成の間”に来てしまったそうです……。

あ、こう状況を整理してらわかったんだけど、転成できるだ……

「……恋の話わかった？」

「わかりましたから、そんな涙目で見ないでください……」

恋さんがものすごい涙目で見てるんですが、めっちゃくちゃかわいいんですよ、この娘……！！

めっちゃくちゃ萌える……

……いかん、いかん、理性を失いかけた。

でだ。

「それで転成できる世界がなぜか… IS…の世界だけなんですよね？」

「……うん」

「まあ、あの世界、面白そうだしいいんだけどね……」

小説読んでたんだけど、いいね IS。MSには負けるけど、男の口マンが感じるね。ハーレムなもの……。

一夏、爆発しろ！

……今は関係ないですね、はい。

「……2つ」

「ん？、なに？」

「……使いたい IS のイメージと要望の2つ」

「なるほど転生してから俺が使う IS を貰えて、要望だから、容姿を変えてくれたとか、こんな才能が欲しい、みないなのを一つ叶えてくれると？」

「……（コク）」

頷いてるしあってるのか。

「そつだな……。やっぱり転成する奴らはMSとかが多いのか？」

なんとなく気になったので聞いてみると

「……多い」

「やっぱりな……」

そりゃ男のロマンだからMSは

他にはACとかオリジナルISか

「なら俺はカスタムロボでいこうかな。他にこれにした奴いるか？」

「……恋が知る限りはいない」

「なら、俺が一番か。なんか気分いいね。作品はカスタムロボGX
でお願い」

今思えばすごいよな、カスタムロボ。64ビットとは思えないなあ
の楽しさは

俺ね要望はGXだけどね……。ISの世界だからGXじゃないと
な……

「……要望はどうする？」

「そつだな……」

他の奴は顔をイケメンとかに変えてもらったんだろうな。まあ、俺

は彼女はいなかったが女友達はいたからどうでもいいだよ……。
だけどせっかくだしな

「容姿とか身体能力も含めて、両儀式、みたいにしてくれないかな？」

式さん、まじでイケメン!!え!? 彼女は女だって? 気にした
だめだよ

「……わかった」

了解でたから、転生後は式みたいな容姿か……、まじばねえ

そういえば

「いつ転生するんだ？」

「……あれ」

「あれ？」

気になったので恋に聞いてみると、指差す方向には光があった。

「あれに向かえばいいのか？」

「……うん」

なんかわかりやすね

床に黒い穴が開いて、てのがテンプレなんだけどね、やっぱり違うだな

「んじゃ、行かせていただきますか」

俺はそう恋に言い、光へと向かう。

「そついや、自己紹介がまだだったな。俺の名前は榛名 空牙だ」

「・・・恋は、呂奉先」

「また、会えること願ってるよ」

「・・・恋も」

恋に見送られながら光へと向かう。

それにしても呂奉先ね・・・

「呂奉先？」

俺は足を止め、後ろを振り替える。

「・・・ん？」

恋さんはかわいらしく首をかしげていた。

萌えるは・・・

じゃ、なくて！

「呂布……！！！！……？……？……？」

そして俺は光に包まれた。

そして彼の物語が始まる……、はず

新00（後書き）

はい、なぜか恋姫の恋登場WWW

恋は今後登場予定なのでお楽しみをWWW

ちなみに自分が好きな恋姫キャラは凧と霞です（・・・）

話がそれましたが・・・

次話より再構築となります。内容としては、転生の仕方、転生時の時空列、が変更となります

では次の更新でお会いしましょう

*誤字、脱字報告や、感想お待ちしております

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5446t/>

ISカスタムロボGX

2011年10月10日01時43分発行